

第6回

人と自然の共生

国際フォーラム



Kaisho SATOYAMA Forum

The 6th International Forum on Interrelationship between Nature and Human Beings

持続可能な社会を目指して、理念から行動へ、今変わる時

From Ideas to Action toward Sustainable Society

今を、明日を、語る・描く・奏でる

Talk and Think about the Actions We Should Take Today for Tomorrow



[報告書] (概要版) 2012.10/13 SAT. 地球市民交流センター (愛・地球博記念公園内)

主催 人と自然の共生国際フォーラム実行委員会
(愛知県、瀬戸市、国際連合地域開発センター、愛知県国際交流協会、中日新聞社、名古屋大学、愛知県立大学、大学コンソーシアムせと、NPO法人海上の森の会、認定・NPO法人の木、あいち自然環境団体・施設連絡協議会)
後援 総務省、環境省、経済産業省、農林水産省、一般財団法人 地球産業文化研究所、一般社団法人 中部経済連合会、名古屋商工会議所、独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 中部国際センター、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所、愛知県森林協会、公益社団法人 愛知県緑化推進委員会、愛知県森林組合連合会、社団法人 愛知県農林公社、愛知県自然観察指導員連絡協議会、森林インストラクター会 “愛”

開催報告

第6回 人と自然の共生国際フォーラム

The 6th International Forum on Interrelationship between Nature and Human Beings

人と自然が共生する持続可能な社会づくりを目指し、多くの方の参加と交流によりみんなで作る「人と自然の共生国際フォーラム」。

第6回となる今回は、第5回で暮らしや生き方を見つめ直し、模索した持続型社会の実現に向けた思いを具体的な取り組みにつなげるため、第5回のフォーラム宣言にそって活動を進めてきた9団体の活動発表や、特別講演、パネルディスカッション等を行い、具体的な行動の輪を広げることを目的として開催されました。

テーマ：持続可能な社会を目指して、理念から行動へ、今変わる時
～今を、明日を、語る・描く・奏でる～

9:55～10:00 開会宣言

10:00～12:15 アクション・プレゼンテーション

- 昨年度(第5回)のフォーラム宣言の内容にそって事業を実施した9団体による活動発表

13:30～13:45 開催の式典

13:45～14:45 特別講演

- 「ポスト311・ローカルで懐かしい未来へ ～若い世代にできること～」
講師：窪田 栄一

14:45～14:55 エシカルファッションショー

14:55～16:40 パネルディスカッション

- テーマ「持続可能な社会を目指して、理念から行動へ、今変わる時
～今を、明日を、語る・描く・奏でる～」
コーディネーター：川井 秀一
パネリスト：稲村 哲也・原田 さとみ・笹谷 秀光・吉田 大
コメンテーター：マリ クリスティーヌ

16:40～17:00 ネパール音楽の演奏

17:00～17:15 フォーラム宣言・閉会式

17:45～19:15 交流会

10:00～16:00 ポスターセッション・工作等体験

ポスターセッション・工作等体験

体育館・屋内広場・多目的室・食の広場では、アクション・プレゼンテーション発表団体による9ブース、愛知県内の自然環境に関する活動に取り組む団体・施設で構成された「あいち自然環境団体・施設連絡協議会(あいち自然ネット)」による15ブース、そのほか県内外で環境活動に取り組む団体等による16ブース、計40ブースが出展し、ポスター展示や体験プログラムを実施しました。

アクション・プレゼンテーション発表団体

- 1 とよた五平餅学会
- 2 愛知工業大学
- 3 学生団体エコのつぼみ
- 4 金城里山コンサベーション
- 5 日本福祉大学知多半島総合研究所
- 6 木造都市研究会「木愛の会」
- 7 愛知県立大学多文化共生・学生ボランティアチーム
- 8 おむすび通貨伊勢三河流域本部
- 9 つちのこプロジェクト

あいち自然環境団体・施設連絡協議会(あいち自然ネット)

- | | | | |
|----|------------------|----|-------------|
| 10 | 愛知県ネイチャーゲーム協会 | 18 | NPO法人東海自然学園 |
| 11 | みどりのまちづくりグループ | 19 | NPO法人海上の森の会 |
| 12 | NPO法人心豊かにARDの会 | 20 | ジーフィールド |
| 13 | NPO法人親水会 | 21 | ネイチャークラブ東海 |
| 14 | 大府市自然体験施設二ツ池セトレナ | 22 | 春日井市民・耕作学習会 |
| 15 | あいち海上の森大学同窓会 | 23 | あいち海上の森センター |
| 16 | 長久手市平成こども塾 | 24 | あいち自然ネット |
| 17 | 尾張自然観察会 | | |

その他県内外の団体等

- | | | | |
|----|----------------------------------|----|-----------------------------|
| 25 | 南遊の会 | 33 | 公益財団法人愛知県緑化推進委員会 |
| 26 | 東アジア里山研究会&南山大学総合政策学部藤本ゼミ | 34 | 一般社団法人ガールスカウト愛知県連盟 |
| 27 | 中部大学応用生物学部・出光興産(株)愛知製油所 | 35 | 愛・地球博記念公園公園マネジメント会議 |
| 28 | 認定NPO法人たの木の | 36 | 愛知県環境部自然環境課 |
| 29 | よりあい工房ばんどり | 37 | 愛知県森林保全課森と緑づくり推進室森林里山再生グループ |
| 30 | 樹恩ネットワーク | 38 | 株式会社豊田自動織機 |
| 31 | COP10 SATOYAMA COMMUNITY NETWORK | 39 | 株式会社伊藤園 |
| 32 | 愛知県緑化センター | 40 | 小林クリエイティブ株式会社 |



アクション・プレゼンテーション

進行：稲村 哲也（愛知県立大学 教授、同多文化共生研究所 所長）

新たな試みとして、昨年度（第5回）のフォーラム宣言に基づき、下記の5つの取り組みを実践する活動を助成することとなり、4～5月に募集したところ、22件の応募がありました。審査により9つの事業が選ばれ、以下の9団体に、事業内容や10月までに実践された結果を報告していただきました。

- 歴史に育まれた地域の暮らしを生かし、つながりを大切にしながら新たな取組
- 里山の自然と人とのつながりの維持保全に対する取組
- 世界や日本で伝えてきた知恵や生き方に学び、暮らしに取り入れるための取組
- 地域や暮らしに活かす自然エネルギー活用の取組
- フェアトレードの実践など、暮らしの中にグローバルな発想や行動を起こすための取組

とよた五平餅マイスター育成～五平餅で地域の未来を育てよう～

とよた五平餅学会



五平餅とは豊田で生まれ、豊田で育った、豊田の郷土食です。合言葉は、「五平餅にも山河あり」です。五平餅の食材、その背景となる歴史や文化、作り手の心等、それらが五平餅を郷土食として成り立たせる物語となっています。新たな取り組みのマイスター育成制度は、郷土食である五平餅の物語を地域にきちんと伝承することにより、地域を支える

人や機会の育成に貢献でき、未来を手伝うことが出来るからです。また、この五平餅学会の活動への参加を一般市民にも広げたいため、この制度を考えました。身近な食から地域を考えたいとし、また、これからの地域を考えるためにも、その地域の身近な文化について考え、伝承を図る活動を目的としています。

八草アートプロジェクト～ホテルが伝える光のメッセージ～

愛知工業大学



愛知工業大学の周辺には、海上の森という豊かな自然が残されています。海上の森から流れる沢には自然に繁殖してきたホタルが生息しており、毎年6月の中旬に見ることができます。そのことを知っている人が車で来られますが、ホタルの発光は求愛行動の一部であるため、ヘッドライト等の強い光がホタルの繁殖に支障をきたす可能性があります。そ

こで自然な光を使い、わずかな光の中でホテルの光の美しさを見ようというイベントを6月14日に開催しました。竹筒の中に口ウソクを入れて柔らかい光が照らす道をつくり、竹を使ったアート作品とホタル鑑賞を通じて、里山のホタルが住む環境を後世に残すことの大切さを来場者の方にメッセージとして伝えました。

私たちといっしょに！里山を身近に感じよう！！

学生団体エコのつぼみ [愛知淑徳大学]



私達エコのつぼみは「楽しくエコ活動をする！」をモットーに、環境にやさしい行動を進めていけるよう啓発活動を行っています。里山の現状について知るため、実際に里山に行き、竹林整備を行っています。そして学んだことを伝えるため、国内の間伐材を使ったマイ箸のワークショップを地域のイベントや学祭で行っています。自分だけのオリジナルなマイ

箸を持ち歩くことによって、一つのことを大事にすることを覚えてもらいたいです。また間伐の大切さを子どもたちに知ってもらうために、より分かりやすく、親しみやすいパペットを使った劇を行っています。

これからも持続可能な社会について、より多くの人に考えてもらう機会を作っていきたいと思います。

「里山にあるキャンパス」の創出

金城里山コンサベーション [金城学院大学]



金城里山コンサベーション(KSC)は、金城学院大学の森を「里山の森」にすることを目指して活動しているグループです。常緑樹を伐採して明るい森を作ったり、一部で繁茂しているモウソウチクから、大学の中にある炭焼小屋で竹炭を作ったりしています。大学には里山散策路があり、植物の特徴はネームプレートのQRコードから理解できるようになっ

ています。KSCでは、里山散策のガイドになるよう、地図やイラスト、写真を使った里山パンフレットや、iPod touchを使って自動的に案内できる「里山touch」というガイドシステムも作りました。このようにKSCでは、大学の里山化と里山を紹介する仕組みづくりをこれからも続けていきます。

「ごんぎつね」を誘う知多半島の企業グリーンベルト 日本福祉大学知多半島総合研究所



知多半島の臨海工場地帯にはグリーンベルトがあります。本活動では、そこに「ごんぎつね」がいるのかを、長期間、5台の自動撮影装置を設置して調べました。6月8日～9月27日までに、3種の哺乳類とネズミ類の撮影に成功しました。タヌキとネズミ類は広い範囲で多数撮影され、少数ながらウサギ、ハクビシンも撮影されました。しかし、キツネは全く撮れま

せんでした。設置場所は、2010年にキツネが発見された場所近くでしたが、すでにいなくなった可能性が高いです。グリーンベルトの前には障害となる交通量の多い道路があり、巣穴となる環境がなく、キツネの餌となる動きの遅い草原性のネズミも少ないので、このような問題の解決が、「ごんぎつね」を誘う道になるかと思っています。

間伐材丸太活用の建築 木造都市研究会「木愛の会」



木の文化を産む都市をつくりたいという思いで、2006年12月に会を設立しました。活動は趣意書に基づき「循環型社会の構築のために木材を使うこと」「大海原の可能性のある木で新しい建築を考えること」「木造都市を提案すること」「建築や関連事業を志す者や学生に近未来の木の建築を学べる場を提供すること」を基本に行っています。主な活

動はセミナーや見学会の開催で、展示会や、学生対象の設計競技も開催しています。今年開催した第2回設計競技「間伐材丸太による小建築 木造都市での可能性を問う」には全国から107点の応募があり、優秀作品のひとつを実際に製作し、会場に展示しました。現在世話人が十数名いて、毎月話し合いを行っています。

環境・多文化共生の国際交流 愛知県立大学多文化共生・学生ボランティアチーム

私たちは留学生と日本の学生と一緒に活動しているグループです。COP10が行われた2010年に開始し、これまで、モリコロパークなどで開催された「先住民族サミットinあいち2010」や「森と草原の地球教室」(2011年)などで活動してきました。フェアトレードも実施し、自然に優しい、いろいろな国の先住民族などの商品を扱っています。内モンゴル

の留学生を中心に、モンゴルのゲル(移動住居)を子供たちと一緒に建てたりします。こういう活動をしながら、モンゴルでの遊牧民の生活やその変化などを紹介しています。モンゴル国では、都市から一步出ると、草原の生活が昔からの形で残っています。ゲルに住んで、ラクダ、ウマ、ウシ、ヤギ、ヒツジを飼っています。一方で、都市化、近代化が大変な勢い

で広がり、こういった昔からの生活から変わってきています。日本人とモンゴル人が交流しあい、お互いの文化や伝統の知恵を学ぶことが、この国際的な活動の意義です。

おむすび通貨で縁むすびプロジェクト おむすび通貨伊勢三河流域本部

市場経済システムは、お金によって人と人、人と自然の関係が断ち切れなければ、うまく機能しません。近代は、市場経済システムが人間社会を、人と自然の結びつきを壊してきた時代です。

おむすび通貨は地域でしか使えない、お米に変わる、裏付けのある、冷たい数字ではないお金、儲けるための資本に転じない期限付

きのお金です。農家が米代としておむすび通貨を受け取り、地元資本の小売事業者が、農家から商品代金としておむすび通貨を受け取り、地元の製造卸し業者さんが、商品代金としておむすび通貨を受け取り、その過程で従業員の方に賃金としておむすび通貨が支払われていく。農家から生み出された地域のお金が、地元で回る結果、人と人が結びつ

き、支えあう関係性が生まれ、地域の一次産業と自然を大切にしたいという思いも生まれてくるのではないかと。そういう理想形をローカルに自治していくためにおむすび通貨を推進しています。

フリーペーパーつちのこ つちのこプロジェクト [愛知県立芸術大学]

地域の元気を伝える「つちのこマガジン」という読みものを作っています。「身近な人々」「身近な自然」この二つをキーワードに、地域の中に入って、いきいきと活動している方々のお話を扱わせていただいています。農家や、お店を営業している方、その他様々なジャンルの方がいらっしゃいます。彼らのみずみずしいことばをもって、うつくしい世界のありようを

伝えることを目的に、ウェブを通して発信しています。2012年4月に発足したつちのこマガジンは、同年9月にHPを設立、そして第1号「暮らしの土台を支える田舎のお金」を発表いたしました。第1号では、自分たちで仕事を作り、自分たちでお金を回すということをしている元気な田舎のお話を紹介しています。これからも、地域を元気にする方々の楽しいお

話をお伝えしていく予定ですので、ぜひお時間あるときHPにお立ち寄りください。
<http://tsuchi-no-ko.com/>